

事発番号:学18-051

事業名: 平成30年度京臨技病理細胞検査精度管理報告会ならびに病理細胞検査講演会

日時: 平成31年2月24日(日) 13:00~17:00

場所: 京都府立医科大学 基礎医学学舎1階 第1講義室

主題1 病理検査精度管理報告と解説

講師1: 二宮 慶太(京都桂病院)

主題2 細胞診検査精度管理報告と解説

講師2: 大上 哲也(京都医療センター)

主題3 当院の細胞診検査の現状

講師3: 井上 小百合(京都第一赤十字病院)

主題4 市中病院でできる病理遺伝子検査

講師4: 佐々木 伸也(堺市立総合医療センター)

参加数: 総数16人 (京臨技会員:16人)

報告者: 久保 喜則(京都第一赤十字病院)

以下、講演内容など

前半は精度管理結果報告と解説を行いました。病理検査分野は、ベルリン青染色を実施しました。3 μ mで薄切した未染色スライドを配布し各施設で染色された標本を回収し、判定は研究班員と参加希望施設代表者で行い施設名を伏せて評価しました。18施設中17施設がA評価と良好な結果でした。1施設は全体のコントラストが減点対象となり、研究班としてサポートをしていくべきと考えます。またアンケートのフォーマットに該当しない回答があり、今後の改善点と思われます。細胞検査分野では、日常的に接することの多い症例や特徴的な症例15例と知識の確認・向上を目的とした症例を選択し教育的症例2例(評価対象外)計17例を出題し、提示写真から回答するフォトサーベイを実施しました。正答率の基準を70%とし、良悪の判定と組織型の鑑別が出来る事を目的としました。参加施設は23施設で、全問正答率が70%以上あり評価対象を外れた症例はなく、施設別正答率は多くの施設が85%以上であり良好な結果と考えます。京都府における状況を把握することができました。後半の病理細胞検査講演会では、講師の施設の細胞診検査の現状を報告していただき、課題や今後の展望も含め、会場で有意義なディスカッションができました。最後は病理遺伝子検査について、講師の施設での取り組みを説明していただきました。FISHとPCR解析を中心に、院内実施の導入経緯から運用、そして今後の課題を豊富なスライドを元に講演していただきました。DNAの品質を如何に管理していくのかが遺伝子検査の精度管理と言え、その重要性を再認識しました。

診断に寄与するための適切な染色標本が作製できるように今後も技術の習熟に励んでいきたいと考えます。大変多くの知識を得ることができた有意義な報告会ならびに講演会でした。